

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report&Column [報告&コラム] -----	3
Information [ご案内] -----	4

NEXT Exhibition 次回展示

企画展「刈谷生まれの雪の殿さま 土井利位」

有料展

開催日 2024年10月5日(土)～11月17日(日)



▲【重要文化財】雪華文蒔絵印籠（古河歴史博物館蔵）



▲ 土井利位肖像（正定寺蔵、古河歴史博物館 提供）

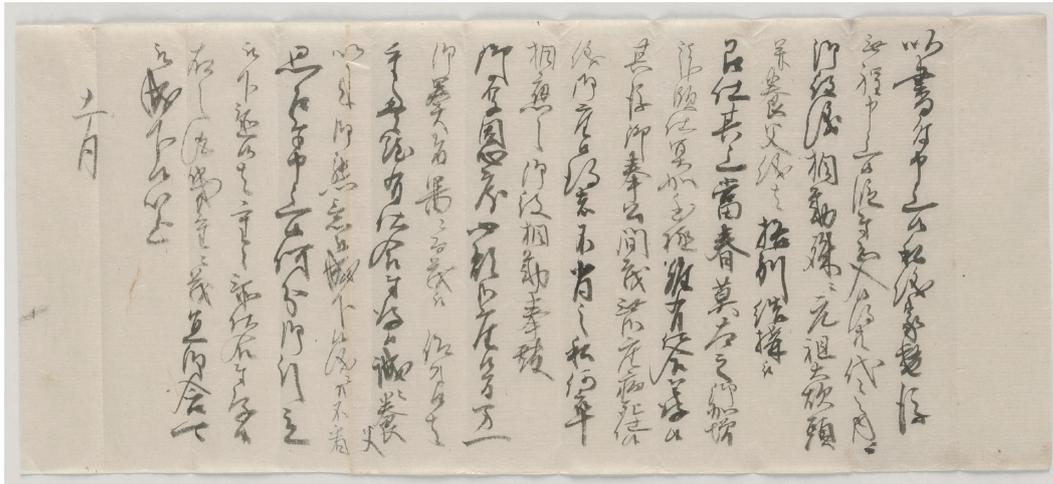
刈谷藩主の土井家に生まれた利位は、25歳のときに本家の古河藩へ養子に出されました。藩主となった後は幕府の出世コースに乗り、大坂城代の時には大塩平八郎の乱の鎮圧、老中としては天保の改革に力を尽くし、「内憂外患」と言われた時代の舵取りを勤めました。

政治に尽力する一方で利位は雪の観察も行い、様々な結晶の姿を記録しました。この結晶の形は浮世絵や衣装のデザインに使用され、利位は「雪の殿さま」として世間に知られるようになりました。

本展では政治家・文化人としての両面に注目し、利位の人物像を紹介します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

土井利位の決意を伝える資料



▲【古河市指定文化財】土井利位書簡（古河歴史博物館蔵）

土井利位は「雪の殿さま」として知られ、幕政にも大きく参与した人物ですが、現在残されている史料は決して多くありません。

江戸時代は「文書主義」で記録に残すことが求められる社会でした。例えば江戸幕府の老中は月番制のため、職務内容を記録に残して引き継ぐ必要がありました。確実に記録を付けるため、日々の業務内容を「覚」に記すなど、その行動は徹底しています。利位も当然このような職務記録を作っていますが、遺っているのはほんの一部で、また職務記録という史料の性格上、利位の考えや性格を窺い知ることは困難です。

幸いにも古河藩では、家老の鷹見家に多くの資料が遺されています。特に利位を支えた鷹見泉石の資料群は豊富で、現在では「鷹見泉石関係資料」として国重要文化財に指定されています。それ以外の資料も「鷹見家歴史資料」として古河市指定文化財となっています。この中には利位自筆の書状なども含まれており、読み解くと利位の人物像を知ることができるものもあります。

ここでは、「土井利位書簡」（鷹見家歴史資料・古河市指定文化財）を紹介します。宛先は記されていないため、不明です。鷹見泉石に出した可能性もありますが、内容からは幕府の役職者に出したものの控の可能性が高いです。内容は「私儀家督後無程申上候段…」から始まり、文政5年（1822）11月、養父利厚が亡くなって家督を継いだ直後に記されたことがわかります。

「代々之内ニ御役儀相勤」と土井家の家格の高さに触れ、藩祖の利勝と養父の利厚は特に幕府への忠義を果たしたとし、「当春莫大之御加増」と1万石の加増（7万石→8万石）を受けたこと、しかしながらその直後に利厚は亡くなってしまったため、私が跡を継ぐことになったと述べています。この「厚恩」に報いるため、今後幕府の役職（奏者番）を勤めることがあれば養父と同様の「御懇意」をいただけるよう引立ていただければかたじけない幸せ、とまとめています。

この書簡からは、以下のことがわかります。

- ・土井利勝以来の幕府へ果たした忠義、特に利厚の功績の大きさへの尊崇の念
- ・跡を継ぐことで、父祖同様に今後幕府の役職を勤める可能性が高いこと
- ・幕府の「厚恩」に報いたいという思いがあるが、それには養父同様の引立てが必要であること

全体を通して、本家筋の古河藩を継ぐことになった責任の重さ、そしてその期待に応えたいという決意が伝わってきます。一枚の書簡から利位の性格を論じるのは少々乱暴ではありますが、忠義に厚い、誠実な人柄も読み取ることができます。

最終的には養父同様に老中となり、幕政をリードする立場となった利位ですが、このような「初心」を伝える史料が遺されていることは大変貴重であると言えます。

（当館学芸員 長澤 慎二）

REPORT 報告

開館5周年記念企画展「めでたきとり」

2024年4月27日(土)~6月9日(日)



刈谷市歴史博物館は、2019年の開館から5周年を迎えました。これを記念し、そして当館を支えていただいた皆様に「優品を鑑賞してもらいたい」という気持ちで「めでたきとり」がスタートしました。

「刈谷・愛知は（意外と）鳥と関わり深いことを知ってもらおう」と目標を掲げて、市章のモチーフとなった雁（ガン・カリ）を中心に、市内・県内にゆかりの鳥の作品を集めました。歴史や美術の教科書に掲載されるような人物の作品も多く、「この作品知ってる」「この作者の名前は聞いたことがある」と、企画展を楽しむためのきっかけ（フック）になったのではないかと思います。また、美術だけでなく、鳥そのものにも興味を持ってもらえるように、鳥の生態や特徴、鳴き声を紹介しました。

期間中は、自然（野鳥の生態等）と美術史（近江八景の落雁）の両面から、ご講演を頂戴しました。また当館初の試みとして移動動物園を招き、展示室で見た作品の鳥を生体展示するイベントを開催しました。どちらも展示作品への理解へとつながったのではないかと感じています。

本展にご出品・ご協力いただいた方々、ご来場の皆様に改めてお礼申し上げます。

（当館学芸員 永井 優香子）

COLUMN コラム

歴博周辺の鳥—シギ・鴨—



シギの多くは旅鳥で、越冬のために日本に飛来します。写真の鳥は真っすぐ長くちばしが特徴のタシギで、逢妻川の川辺にあるブロックの隙間に隠れていました（2024.1.12, 刈谷境橋より山下撮影）。

さて、刈谷と知立にまたがって「重原」という地名がありますが、記録では「鴨原」と書かれることがあります（『信長記』首巻）。平安時代には重原荘という荘園があり、その地名を元に重原氏と名乗る武士がいたので重原が元であると考えられますが、それがどこかで聞き伝える内に「シギ」と聞こえて鴨の字を充てたのではないかと思います。ただ、鴨原の文字だけを見るとシギの多く飛来する野原だったのでは？と想像してしまいますね。

（当館学芸員 山下 智也）

INFORMATION ご案内

新規刊行物



- ・刈谷城跡確認調査報告書—亀城公園整備事業に伴う埋蔵文化財調査— 定価：2,000円
- ・宮東第1号貝塚埋蔵文化財調査報告書（平成10～28年度調査） 定価：1,500円
- ・研究紀要第4号 定価：600円
- ・鉄錆地塗紺糸織塗込仏胴具足・尉頭形兜修復・調査報告書 定価：1,500円

販売場所：当館受付

図書コーナー



図書コーナーにて、学芸員によるおすすめの本の紹介をしています。

簡単工作（10月～12月）

土日祝日開催 受付は午後4時30分まで

- ・手回しゴマ 300円
- ・折り紙「ふくろう」 無料
- ・季節メニュー「万華鏡」 500円
（10月5日～11月17日期間限定）



◎ポイントカードを発行します◎
簡単工作に参加し、ポイントを集めてグッズと交換しよう！

※あいちウィーク（11月21日～11月27日）は平日も開催（25日は休館）

カレンダー

10	日	月	火	水	木	金	土	11	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5							1	2
6	7	8	9	10	11	12		3	4	5	6	7	8	9	
13	14	15	16	17	18	19		10	11	12	13	14	15	16	
20	21	22	23	24	25	26		17	18	19	20	21	22	23	
27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30	

2025	1	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

企画展「刈谷生まれの雪の殿さま 土井利位」

休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道 JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バス 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車 伊勢湾岸自動車道
名古屋南IC、刈谷スマートICまたは豊田南ICから約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、またはX（旧Twitter）をご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL: <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式X（旧Twitter）
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。